

老人保健制度の変遷と来院患者数について

池 嶋 一 兆 影 山 利 夫¹ 田 代 俊 男

齋 藤 高 弘 天 野 義 和²

A Transition of Senior Citizen Health Insurance and the Number of Patients at Polyclinic of Ohu University Dental Hospital

Katsuyoshi IKESHIMA, Toshio KAGEYAMA¹, Toshio TASHIRO
Takahiro SAITO and Yoshikazu AMANO²

In February 1983, the Senior Citizen Health Policy, part of the National Health Insurance, was established. Since then, although the policy has been revised eight times, there have been almost no published accounts or patients' words after each revision and implementation. According to our research, there were few reports about the relationship between the reviews and the number of patients.

Therefore, we investigated it and we also did the research on Employee's Self Insurance at the Polyclinic at Ohu University Dental Hospital.

The results of this research show that ;

1. About the Senior Citizen Health Insurance : there were no findings of so called "running-in" visits to the clinic after any of the revisions.

The reasons of this are :

- ①The increased sums were not so large.
 - ②Most of the revisions were done in the winter, when senior citizens tended not to go outside due to the cold weather.
 - ③Senior Citizens might be able to receive dental treatments.
2. About the Employee's Self Insurance : There have been evidently "running-in" visits to the clinic since two months before the third revision which was enforced in April 2003. The decreased number of patients immediately after the enforcement improved there after.

Key words : senior's insurance, employee's insurance

緒 言

国民健康保険における老人保健は、昭和58年2月にその制度が創設施行された。以後今日までに8回の改正が実施されているが、制度の改正・施

行による患者の年次を追った動向はこれまでほとんど報告されていない。

今回著者らは、奥羽大学歯学部附属病院歯科外来受診患者における老人保健制度の変遷と来院患者数に関して、制度創設当時の経時的観察を

受付：平成16年2月2日，受理：平成16年4月12日
奥羽大学歯学部診療科学講座
奥羽大学歯学部附属病院医事課¹
奥羽大学歯学部歯内療法学講座²

Dept. of Therapeutic Science, Dept. of Endodontics²,
Ohu University School of Dentistry, Dept. of Medical
Matters¹, Ohu University Dental Hospital

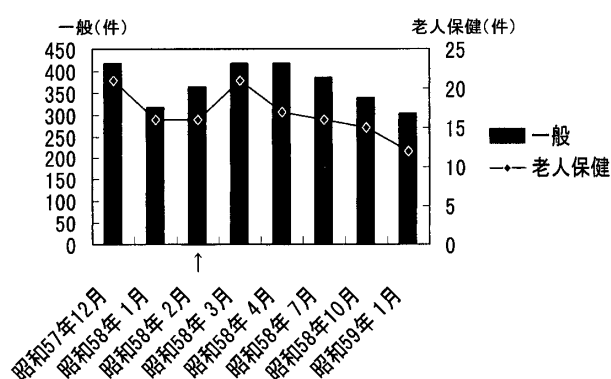


図1 制度創設(昭和58年2月施行)時

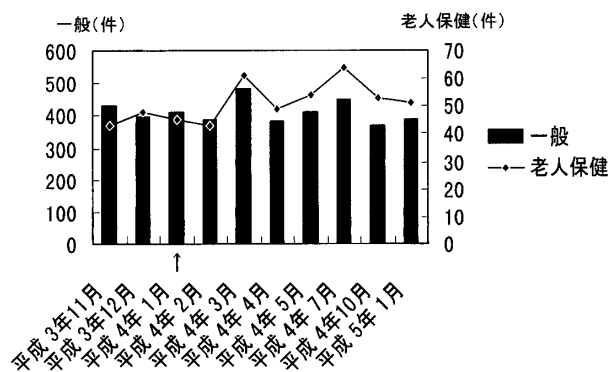


図3 平成4年1月施行時

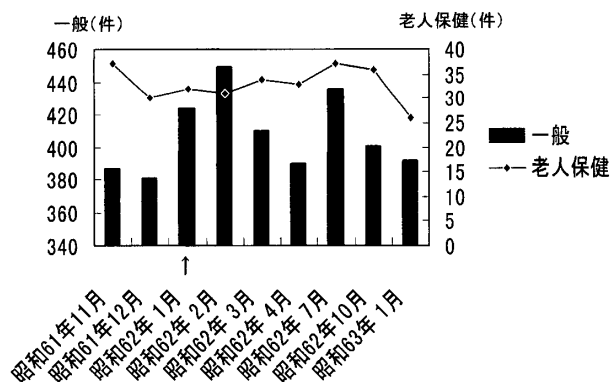


図2 昭和62年1月施行時

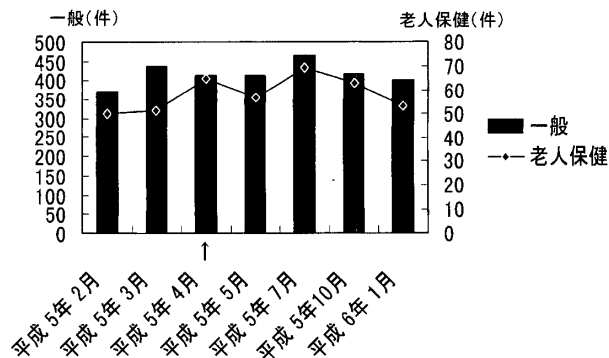


図4 平成5年4月施行時

行った。併せて、平成15年4月より施行された社会保険本人（以下本人とする）の3割負担による影響を昭和59年10月（定率1割負担へと改正）および平成9年9月（定率2割負担へと改正）当時と比較検討したので、報告する。

対象および方法

調査の対象および方法は、老人保健に関しては、創設施行された昭和58年から平成14年までの間で、改正が施行された年を中心に国保一般、および老人保健の適応により当院外来を受診した患者数の比較により行い、本人に関しては、改正が施行された昭和59年10月、平成9年9月および平成15年4月を中心に本人の受診数と対象として支払基金公示の福島県内における本人・家族の支払確定件数を比較した。

結果および考察

図1は、老人保健制度が創設され、一部負担金が一カ月400円に設定された昭和58年2月を中心に患者数の推移を追ったグラフで、左側縦軸には国保一般患者数を、右軸には老人保健の患者数を示し、施行時を上部の矢印にてあらわす。

横軸には施行時とその前後おのおの2カ月に加えて一年間を3カ月間隔で区切った4、7、10および1月の調査時期を示す。

老人保健の患者数は国保一般患者数と同様に変化し、いわゆる駆け込み診療の傾向はなく、むしろ制度施行翌月の方が患者数が増加しているのが認められる。

図2は、一部負担金が一カ月800円に改正された昭和62年1月時の患者数の推移を示す。前年11

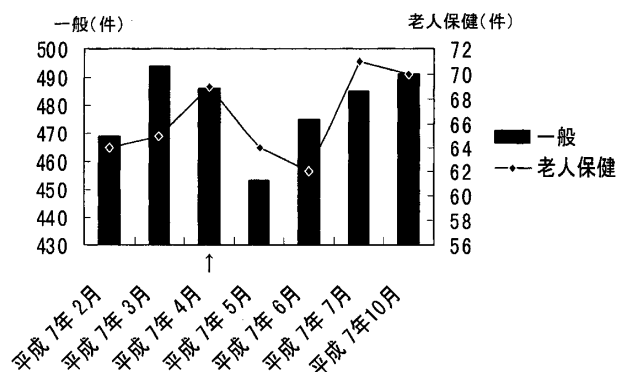


図5 平成7年4月施行時

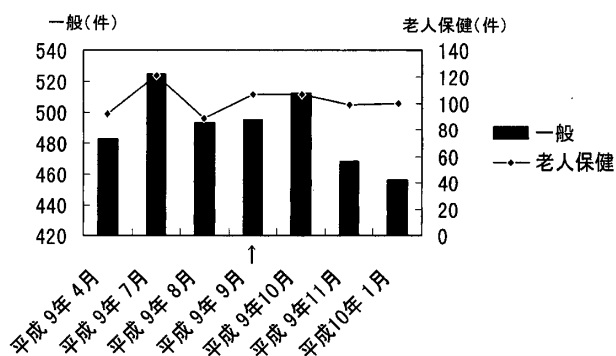


図7 平成9年9月施行時

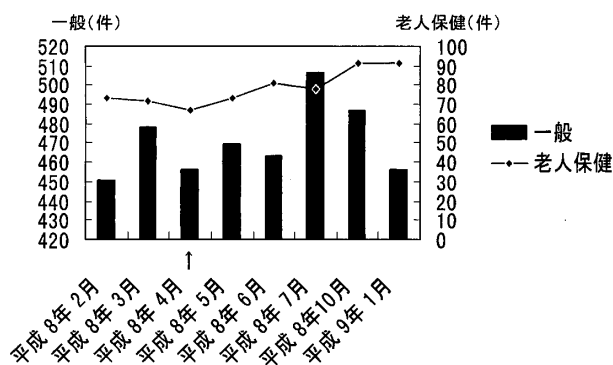


図6 平成8年4月施行時

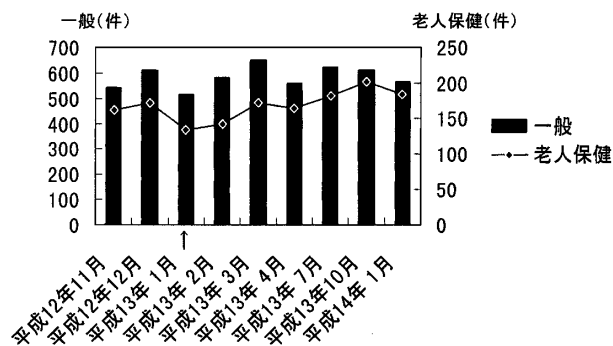


図8 平成13年1月施行時

月に比べて12月に若干の減少を認めるものの、そのままの数を概ね維持しており、前改正時同様、駆け込み診療の存在は認められない。

図3は、一部負担金が一カ月900円に改正された平成4年1月時の患者数の推移を示す。2カ月前より患者数には変化が認められず施行2カ月後まで一定数を維持している状態が確認できる。

図4は、一部負担金が一カ月1,000円に改正された平成5年4月時の患者数の推移を示す。施行前2カ月前より、施行後に患者数が増加していることが認められる。

図5は、一部負担金が一カ月1,010円に改正された平成7年度時の患者数の推移を示す。グラフ上では大幅に患者数の減少があったように見えるが、右側縦軸の目盛り幅が件数の増加により変化したためと考えられ、実際の4月と5月の差は

僅か5件であった。

図6は、一部負担金が一カ月1,020円に改正された平成8年度時の患者数の推移を示す。初めて施行前2カ月前からの減少傾向を認めたが、その数は2月時に比べて6件であり、施行翌月には回復していた。更にこの後は年度を通じての増加傾向を認めた。

図7は、一部負担金が従来の一定月額制に代わり、一カ月に4回を限度として、一回当たり500円に改正された平成9年9月時の患者数の推移を見たものである。負担額合計が2倍に増額されたにも拘わらず、改正後でも来院患者数は平均で約100件が保たれていることが確認できる。

この傾向は、一回当たりの一部負担金が530円に改正された平成11年度においても、同様に認められた。

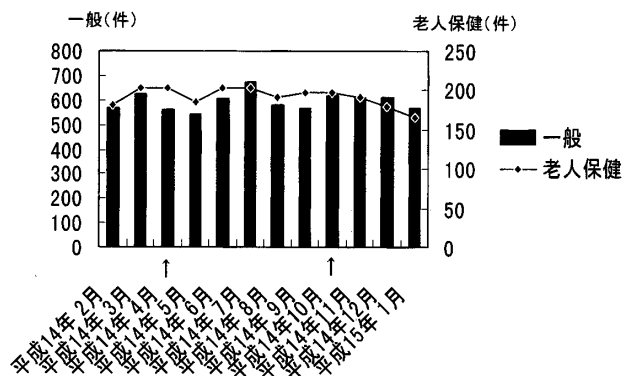


図9 平成14年4月・10月施行時

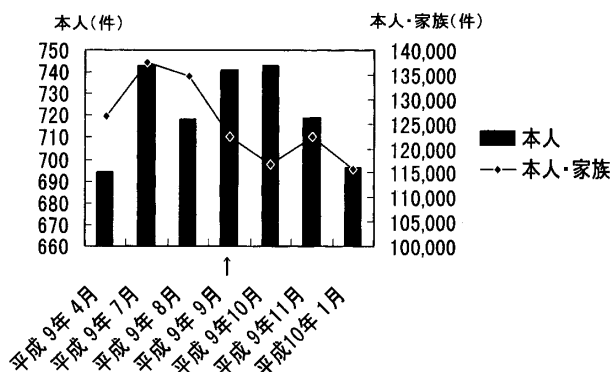


図11 平成9年9月施行時

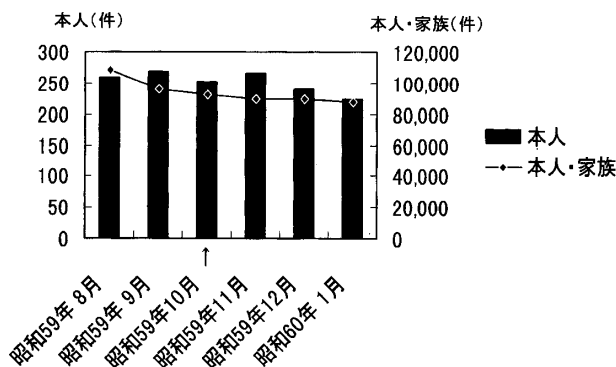


図10 昭和59年10月施行時

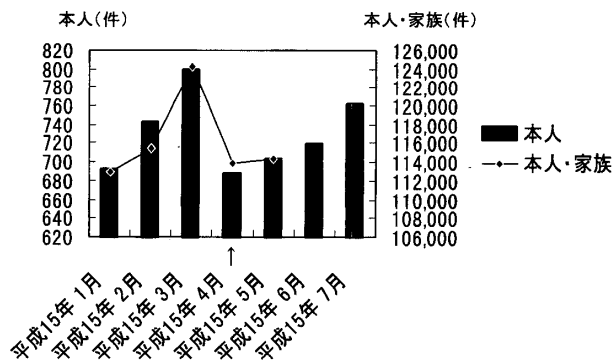


図12 平成15年4月施行時

ここまでで、一部負担金の改正・施行にも拘わらず、いわゆる駆け込み診療の傾向が認められず、来院患者数に大きな変化がなかった原因を検討してみると、

①改正による増額が小さかったこと。

②施行の時期が、来院患者数の少ないとの報告¹⁻⁶⁾が多い冬季に殆どが集中しており、老人保健の適用を受ける被保険者が寒さのために外出を控えたのではないかとということ。

③被保険者に経済的な余裕があったのではないかとということ。などが、考えられる。

図8は、老人医療の一部負担金に、外来の月額上限が3,000円と制限付ではあるが、1割という定率負担が導入・施行された平成13年1月時の患者数の推移を示す。

今回の改正に当たっては、増額率では約50%で、

施行時期が冬季にもかかわらず施行前2カ月間に明らかに駆け込み診療の傾向が認められた。

ただし、施行月および翌月は患者数が減少したものの、施行から2カ月後には患者数が回復し、以後は増加傾向を示している。これは、定率負担という言葉から受けるイメージにより、急激に負担額が増加すると錯覚したためではないかと推察された。

図9は、外来の月額上限が3,200円にスライドされた平成14年4月時と、高額所得者に対する負担率20%が追加導入された同年10月時を中心とした患者数の推移を示す。

今回は、月額上限に対する認識が全回に比べて明確であったために駆け込み診療の傾向は認められず、一年間を通して一定の来院患者数が確保されていた。ただし、例年同様、冬季には若干の減

少を認めている。

次に、平成15年4月より施行された本人の3割負担による影響を昭和59年10月および平成9年9月と比較検討した結果を報告する。

図10は、本人の外来診療における一部負担金が定率1割負担へと改正された昭和59年10月時の患者数の推移を示す。左側縦軸には本人の受診数を、右側には対象として支払基金公示の福島県内における本人・家族の支払確定件数を示す。

施行前2カ月間は若干の増加傾向を認め、施行の10月には減少したように見えるが、8月から9月にかけての増加は10件で、増加率は3.8%であった。一方、9月から10月での減少は18件で、減少率は6.7%であった。

図11は、一部負担金が定率2割へと改正された平成9年9月時の推移を示す。前回の改正時と比較して全体に変動が大きく感じられるが、これは本人の受診数が2.5倍に増加して左側縦軸のスケールが変化したためと考えられる。

施行前月に比べて施行月には23件(3.2%)と有意な増加は認められなかった。

図12は、一部負担金が定率3割へと改正された平成15年4月時の推移を示す。

施行2カ月前から毎月約50件の増加を認め、施行月には受診者数が急激に減少するといういわゆる駆け込み診療の状態が認められた。また、本人と同様に本人・家族の受診者数も増加している点が興味深い点と思われた。

施行月に減少した患者数は、その後暫時回復しており、3カ月後の同年7月には施行前月の2月を越える来院患者数に達していた。

平成15年6月10日付けの日本歯科新聞によると⁷⁾、同年4月における受診件数について、対前年同月に比して「減少した。」と回答したのは、医科は68.7%、歯科は64.9%であったと報じられており、7月11日に発行された社会保険旬報によると⁸⁾、本人の受診件数では前年同月比で2.7%減少し、金額は13.6%減少したと報じられていた。また、厚生労働省保険局調査課公表による、平成15年7月における医療費の動向は、種類別医療費総額のうち診療費の伸び率における歯科は、対前年同期比5.7%減少の2,155億円であった。なお、歯科の

一人当たり医療費の伸び率は、同5.8%減少し、さらに歯科の種類別における受診率の伸び率は同1.6%減とのことであった⁹⁾。

当院外来においては、施行月には1月と同程度まで減少したが、それでも前年同月比で47件(7.3%)増加し、その後も徐々に増加の傾向を認めている。これは、本院診療録整備委員会資料によると平成13年年度の紹介率が17.8%であったのに対し、14年度では21.8%に、さらに15年度では28.5%と増加している事からも判るように、地域歯科医師会会員によるバックアップによるものと考えられ、今後ともより密接な協力関係を維持しながら、地域医療に貢献して行きたいと考えている。

結 論

奥羽大学歯学部附属病院歯科外来受診患者における老人保健制度の変遷と来院患者数に関して、制度創設当時の経時的観察と、平成15年4月より施行された社会保険本人(以下本人とする)の3割負担による影響を昭和59年10月(定率1割負担へと改正)および平成9年9月(定率2割負担へと改正)当時と比較検討し、以下の結論を得た。

1. 老人保健に関しては、制度創設以来8回の改正・施行時に於いて、明かと思われるいわゆる駆け込み診療の状態は認められなかった。

2. 本人に関しては、一部負担金が定率3割へと改正された平成15年4月時を中心として、その2カ月前からいわゆる駆け込み診療が認められた。

また、減少した患者数は、暫時回復傾向を示した。

文 献

- 1) 鶴田敬司, 梅田浩将, 鳥山和茂, 尾崎雄一郎ほか: 岡山大学歯学部附属病院開設後5年間の総合診断質における患者の推移. 日口診誌 1; 141-145 1988.
- 2) 宮脇守男, 長島駿一郎, 鶴田敬司, 貞森平樹ほか: 開設後5年2カ月間の香川医科大学医学部附属病院歯科口腔外科における患者統計. 日口診誌 2; 138-142 1989.
- 3) 富野照久, 藤沢誠一郎, 三村里香, 麻生幸男ほか

- か：明海大学口腔診断科における新患の過去6.5年間の臨床統計的観察. 日口診誌 **10**；302-307 1997.
- 4) 佐藤泰則，宮下直也，君島 裕，黒川英人ほか：当科外来新患患者における有病者の臨床統計的観察. 日口診誌 **12**；404-410 1999.
- 5) 池嶋一兆：奥羽大学歯学部附属病院一般歯科受診患者の臨床統計的観察. 日口診誌 **16**；49-56 2003.
- 6) 池嶋一兆，釜田 朗，清野晃孝，齋藤高弘ほか：奥羽大学歯学部附属病院一般歯科受診紹介新患の臨床統計的観察. 日歯医療管理誌 **38**；335-341 2004.
- 7) 日本歯科新聞社：日本歯科新聞. **1328**；2 2003.
- 8) 社会保険研究所：社会保険旬報. **2177**；4 2003.
- 9) 厚生労働省保険局調査課：最近の医療費の動向. 2003.
- 著者への連絡先：池嶋一兆，(〒963-8611)郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学歯学部診療科学講座
Reprint requests：Katsuyoshi IKESHIMA, Department of Therapeutic Science, Ohu University School of Dentistry
31-1 Misumido, Tomita, Koriyama, 963-8611, Japan